

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400261		
法人名	有限会社 眞心		
事業所名	グループホーム 五条		
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市五条2-15-15 (電話) 092-924-4898		
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 11月 10日		

【情報提供票より】(平成 19年 10月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)		新築 (改築)
建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費	有
敷金	有(円)		(無)
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (500,000円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり	1,400 円	

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院 中川内科医院 秋吉外科医院 吉塚歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にある3階建てのホームである。玄関の向こう側の川の両側には長い桜並木があり、丁度桜の葉が紅葉して美しい景観の所である。1階部分ではデイサービスが行われておりデイサービスでの利用者が2階3階のグループホームに入居されることが多く馴染みながらの関係がある。毎月広報紙「にじ」を発行して入居者一人ひとりの暮らしぶりを報告したり、家族会を開催して、常に利用者、家族にとって居心地の良いホーム環境への努力がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全体会議で意義を理解し、評価に関して出来るところから改善していくように考えている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) これまで運営推進会議は行われていなかった。今年12月5日によりやく開催できる運びとなる。今後は2ヶ月に1度の開催予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族が訪問時に苦情等が言いやすいように職員は工夫しており、出された意見や苦情は出来るだけ早く対応、改善している。
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の中では月1回の広報紙を配布している。又清掃活動に参加し、散歩の途中など積極的にあいさつをして連携を深めるようにしている。
	重点項目 ④

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしい介護とアットホームな毎日を」を理念にかかげている。地域の中での活動として、あいさつや、掃除活動を行っている。	○	グループホーム五条の指針の中には、地域の中で暮らしていく事を掲げているが、理念として盛り込んでいくと更によいと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時には常に職員間で理念の確認をしている。日々のケアの中で常に理念に振り返り職員全員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時には近隣の方と笑顔で挨拶を交わしたり、町内の清掃活動に参加している。施設への理解を深めて貰うために町内に広報紙を配付している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全体会議で全職員に伝え、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果についてはできるところから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで運営推進会議は行われていなかった。ようやく12月5日に開催できる運びとなる。今後は2ヶ月に1度の開催予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口と常に連携をとり、事業所の現情を伝えたり、疑問に感じることや、分からないことは積極的に相談をしてサービスの向上に努めている。市議会からの視察もあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員が「勉強会」を開き、制度についての情報を伝達している。現在2名の入居者が制度を利用している。必要な利用者には活用されるように説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の広報紙「にじ」を作成しており、請求書と一緒にホームでの暮らしぶりを、担当者が手書きで書いたものや写真を送付している。職員の異動等ホーム内の情報をお知らせしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を何度も開催しているが参加者は少ない。意見や苦情は訪問時に気がるに言える様に職員は工夫しており、出された苦情等は出来るだけ早く対応、改善している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑える為の教育として、グループホームで働いているという認識が持てるように徹底した教育をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたり年齢や性別に関係なく採用している。休暇や交替に関しても希望に添えるように工夫し、職員が働きやすい環境づくりをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	2ヶ月に1回の会議のなかで、人権教育、啓発に取り組んでいる。市が開催する講演会等にも参加を促している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回、施設内で研修をしている。また、職員がレベルアップ出来るように、介護福祉士、社会福祉士など資格取得を勧めしており、勉強会への参加は勤務扱いとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回、グループホーム職員との交流があり、その時に知り合った他施設の職員の訪問を受けたり意見の交換をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居により、閉じ込められた様な気持ちを抱え込ませない様にいきなりサービスは始めないように体験宿泊を行なっている。また、家族に今までの生活状況や性格など聞き取り、馴染めるような環境づくりを心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションの重要性から、常に言葉をかけながら対応している。調理では入居者の得意なことが多く、入居者にとっても如何に「残存機能」を生かすかの対応とし、教えてもらう事も多い。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者、家族の希望や意向を把握し、入居後は日々の生活に反映できるよう職員全員が取り組み、困難な場合は、家族からの情報、利用者の日々の言動から利用者の思いを汲み取り利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族がどのような日々の暮らしを望んでいるかを聞き取り、その思いをもとに、関係者や職員の関わりの中からの意見やアイデアをとりいれ、利用者の日々の生活に反映した支援が行えるように介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者個々の生活目標が掲げられ、基本的には月に1回の見直しは行っているが、家族との情報交換や日々の生活の中での変化を見逃さないで随時新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、少し離れた位置に小規模多機能施設が設置されている。当グループホームでは、1階のデイサービス利用者との交流の場として柔軟に施設が利用できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々の入居以前からのかかりつけ医との連携を大切にし、利用者が安心して受診ができる支援を行ない、受診ができない場合は、事業所の主治医の訪問診療が受けられるように家族や医療機関との連携の強化に努めている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のありかたについての取り組みや確認書は作成しているが、家族の思いを押し量って、入所後信頼関係を形成して行く中で話し合いを持ち、利用者、家族の思いを聞き取り、利用者、家族本位の支援ができるように、医師、職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員個々の言動をみんなで確認し合いながら、利用者への対応や記録に配慮し、個人情報関係以外の人には触れられないように大切に事務室に保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはプログラムは作成しないで日々の生活の中での過ごし方は個人の希望を取りいれている。自由に部屋を出入りしている人、銀杏の皮を無心に剥いている人、側で言葉を交わしている人それぞれの生活空間を大切に支援が行われている。		
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食台には、個々の好みの食器が添えられ自由な雰囲気の中で食事が行われている。職員全員が食事を共にし、摂食困難な利用者にはゆっくと個別に側で援助を行っている。食事が終わった人はそれぞれが自然に下膳をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現時点では、ボイラーを1階のデイサービスと共用しているために午後での入浴時間のなかで個別の要望を取り入れ、拒否する利用者や、体調不良で入浴ができない場合は清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時や、日々の生活の中で利用者の保持している趣味や機能を把握し、買物に行きたいときは職員が同行したり、墨絵の好きな人、料理を手伝う人など個別の能力を活かすことで生活の楽しみや気晴らしのできる支援を行なっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の望む喫茶でコーヒーが飲みたい人、散歩に行きたい人、買物に出かけたい人など個別の希望に添って戸外の空気に触れたり、近所の住民との接触ができるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、日中は居室と出入口には鍵はかけないようにし、見守りを強化している。1階、2階、3階にはエレベーターが設置しているが、開閉にゆとりの時間を設けて施錠はしていない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との避難訓練や指導を年に1回実施し、再確認している。関係機関との連絡網の徹底や通報の手順、器具の扱いなど職員の目の届く場所、エレベーターの中など数カ所に掲示している。地域との連携は現在取り組んでいるところである。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取、水分摂取記録をもとに、食事量や栄養バランス、ひとりひとりの嗜好や体調、習慣に応じた支援を行なっている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した品を掲示し、季節を感じさせる作品が並ぶ居室では、ソファに座って休む人、銀杏の皮を楽しそうに剥きながら会話を楽しんでいる人など、家庭的な雰囲気を職員が優しく見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が、入居前に使用していた家具や、ベッド、置物などを持ちこんで、使い慣れたものや好みを活かされ、生活の継続された空間が保てるように支援している。</p>		